【「もっと横浜」プロジェクト特別講演会】

文化資源学って何？

美術は見世物だと喝破かっぱして『美術という見世物』を書き、
町はハリボテに満ちていると見破って**『ハリボテの町』**を著し、
お城と動物園に通いつめながら、彫像の**股間表現**の探究を続ける
文化資源学の**鬼才・木下直之**が、横浜なるものの「はじまり」に迫る。
「日本のはじまり」が答えにくいように、「横浜のはじまり」だってむずかしい。

横浜のはじまり

――祭りと記念日をめぐって――

講演者

kinoshita　naoyuki

木下　直之

（東京大学教授、文化資源学）

1954年、浜松生まれ。東京芸術大学大学院中退。兵庫県立近代美術館学芸員を経て、東京大学教授。
主な著書に『美術という見世物』（サントリー学芸賞、平凡社。のち、ちくま学芸文庫、講談社学術文庫）、
『写真画論―写真と絵画の結婚』（重森弘淹写真評論賞、岩波書店）、『ハリボテの町』（朝日新聞社）、
『世の途中から隠されていること』（晶文社）、『わたしの城下町』（芸術選奨文部科学大臣賞、筑摩書房）、
『股間若衆―男の裸は芸術か』（新潮社）、『戦争という見世物』（ミネルヴァ書房）、『銅像時代』（岩波書店）。

2014年11月5日（水）14:45～16:15（14:20開場）

会場：横浜国立大学 教育8号館101教室　どなたでも参加いただけます

主催：横浜国立大学教育人間科学部「もっと横浜」プロジェクト（担当教員：川添裕）